

# 富山経済同友会

会報

2024.3月  
No.317



第5回文化スポーツ委員会（1月27日）

## CONTENTS

- 1月幹事会 ..... 2
- トピックス（義援金を県に贈呈） ..... 3
- 【講演録】12月会員定例会：出雲 充 氏 ..... 4
- 1月会員定例会 ..... 9
- 【講演録】1月会員定例会：関田 晃 氏 ..... 9
- 第2回企画委員会 ..... 15
- パートナースhip構築推進セミナー（企業経営委員会） ..... 15
- 第1回同友会経営道場（企業経営委員会） ..... 16
- 第5回文化スポーツ委員会 ..... 17
- 第3回アスリート支援小委員会 ..... 17
- 第2回人財活躍委員会 ..... 18
- トピックス（とやま企業見学バスツアー） ..... 18
- 第3回地域創生委員会 ..... 19
- スケッチオーデション（アントレプレナーシップ小委員会） ..... 20
- 第1回ウェルビーイング小委員会 ..... 22
- 同友会の日（富山グラウジーズ） ..... 23
- 第3回交流委員会 ..... 24
- 第4回交流委員会 ..... 24
- 第4回教育問題委員会 ..... 25
- 第5回教育問題委員会 ..... 25
- 課外授業講師派遣 ..... 26
- リレーエッセイ⑩（上願 宏幸 氏） ..... 27
- 活動報告 ..... 28
- 会員の入退会 ..... 30
- トピックス（海外教育事情視察大同窓会） ..... 33
- 今後の予定 ..... 33
- わが青春の1枚（尾島 志朗 氏） ..... 34

# 代表幹事年頭所感

## 1 月幹事会

1月11日(木)、富山電気ビルディングにおいて1月幹事会を開催、51名が参加した。会の冒頭では、元日に発生した能登半島地震の犠牲者に黙とうを捧げた。

続いて、麦野代表幹事・牧田代表幹事がそれぞれ能登半島地震へのお見舞いと年頭所感（別記のとおり）を述べた後、議事に移った。議事では、会員の入退会を決議したほか、活動実績と今後の予定について事務局から報告した。

（例年、1月幹事会後には富山県知事を迎え

ての昼食会を開催しているが、今年は能登半島地震の発生を受け、中止した。）



### ◆失われた30年を取り戻すため前進しよう 麦野代表幹事



昨年を振り返りますと、明るい話題は新型コロナウイルスからの脱却です。3年余りの間に日本の人口の3割、3,400万人が感染し、75,000人が亡くなりました。パンデミック

の怖さと同時に、平穏な日常の有難さ、人との繋がり温かさを強く感じました。暗い話題は、異常気象により世界中で災害が起こることと、終わりが見えないウクライナ戦争と中東紛争です。

今年は選挙のビッグイヤーです。明後日の台湾総統選に始まり、インドネシア・ベラルーシ・ロシア・ウクライナの大統領選、韓国・インドの総選挙、そして11月にはアメリカ大統領選があります。アメリカ大統領選の結果によっては、世界は激しいVUCAの時代に戻ることが予想されます。国内では、裏金疑惑により政治混迷が必至ですが、7月に東京都知事選が行われ、9月には自民党総裁の任期が満了となります。県内においても、知事選、魚津・砺波・南砺の市長選が行われます。このようにたくさんの方の地政学的リスク、政治的リスクがありますが、2024年の日本は賃上げムードの中、個人消

費の回復、設備投資の増加により成長率は1%強というのが大方の見方です。

私は2024年のテーマは「前進」だと捉えています。バブル崩壊後の「失われた30年」には、同時多発テロ、リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルスなど大きな経済ショックが立て続けに起こりました。ショックを回避するため、日本の大半の経営者はリスク回避一辺倒で、事務効率化・人員削減に走り、前向きな投資をしませんでした。窮地に陥れば政府や日銀が何とかしてくれるというマインドもあったかもしれません。この結果として、日本の1人当たりGDPがG7の中で最下位の状況に陥っていることを反省しなければなりません。

1956年の経済白書では政府が「もはや戦後ではない」と宣言しています。今年は能登半島地震により多くの方が被災されたので、第一には人命救助と復旧ですが、片方で言えるのが、「もはやコロナ後ではない」ということです。失われた30年から脱却し、取り戻す30年を前向きに進めていくことが私たちに求められているように思います。

私たち富山経済同友会は富山県、日本経済の発展のために行動する志ある進歩的経済人の集まりです。新年早々想定外の能登半島地震が発生しましたが、これにひるまず、めげず、皆で連携を取り、地域経済の発展という大きな目標に向け行動していきたいと思っています。



## ◆イシュードリブン思考で

### 牧田代表幹事



予測できない様々なことが起き、デジタル革命も進む今の時代、我々は未知の世界に飛び込んでいかねばなりません。未知の世界では、課題に直面したときに、前例や過去の成功体験に頼ってはいは解決することができません。ではそのようなときどうすればよいのか、ここで皆様にご紹介したい一冊が安宅和人氏の『イシューからはじめよ』です。年末に久しぶりに読み返したのですが、画期的な内容でありまして、何か問題が起こったら必ずそのイシューまで立ち返り、イシューを見極めたうえで、仮説を立てて分析し対策を取りなさいと、非常に当たり前のことが書いてあります。今、世の中全体が、攻めなければならない時に守り

に入ってしまう、「守りの姿勢」から抜け出せないものですから、前例はどうだったか、過去の成功事例はどうだったかに捉われがちです。その姿勢を改めるためには、イシューから考えることが私たちに求められているのではないかと考えております。

富山経済同友会もこれから様々な課題に直面していくことと思います。その時には、ぜひイシューに立ち返り、イシューから考えていただきたい。イシュードリブン思考で回していただくことによって、様々な課題を解決し、会員の皆様に素晴らしい同友会だと思っていただけるような同友会にしていきたいと考えています。

私が代表幹事に就任して2年が経とうとしています。論語には、3年間は従来のやり方を改めるなという教えがありますが、今の世の中では3年も待ってられません。今年からは少しずつカラーを出して、いろいろなことを仕掛けていきたいと考えておりますので、会員の皆様には引き続きご指導を賜りますようお願いいたします。



## 令和6年能登半島地震の義援金を県に贈呈

1月1日の午後4時過ぎに発生した能登半島地震により、県内においても震度5強の揺れに甚大な被害が発生した。

当会として被災された方々にお見舞いを申し上げるとともに、復旧を支援するため、急遽、常任幹事会での書面決議を得て義援金300万円を富山県に寄附することになった。

1月19日(金)に、麦野代表幹事と牧田代表幹事が県庁を訪れ、新田知事に目録を贈呈した。それに対して、新田知事から当会に対して感謝状が贈呈された。そして、義援金は、県が設置する配分委員会において配

分額を決定のうえ、各市町村を通じて被災された方々に届けられるとのことであった。



# 「僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。」

株式会社ユーグレナ 代表取締役社長 出雲 充 氏



## (プロフィール)

駒場東邦中・高等学校、東京大学農学部卒業後、2002年東京三菱銀行入行。

2005年株式会社ユーグレナを創業。世界初の微細藻ミドリムシ（学名：ユーグレナ）食用屋外大量培養に成功。

世界経済フォーラム（ダボス会議）ヤンググローバルリーダー、第一回日本ベンチャー大賞「内閣総理大臣賞」、第五回日本SDGs大賞「内閣総理大臣賞」受賞。

著書に『僕はミドリムシで世界を救うことに決めた。』（小学館新書）、『サステナブルビジネス』（PHP 研究所）

経団連審議会副議長・スタートアップ委員長、経済同友会スタートアップ推進総合委員長、内閣官房知的財産戦略本部員、新しい資本主義実現会議スタートアップ育成分科会委員、文部科学省起業家教育推進大使、ビル&メリンダ・ゲイツ財団SDGs Goalkeeper

## ◆ バングラデシュでの決意

東京の多摩ニュータウンで、サラリーマンの父と専業主婦の母と私と弟という平凡な家庭で育ちました。こんな私の高校生のときの夢は海外に行くことでした。そして、大学1年生の夏休みに行ったバングラデシュで、人生が変わりました。

バングラデシュは2つのことで有名です。1つが人口大国で、日本の約4割の国土に1億7,000万人も暮らしております。2つ目が世界最貧国のひとつであることです。6,000万人は農家で、一日中働いても一日の収入が100円程度ですから、年収は4万円にも届きません。

こうした貧しい農家を助けるためムハマド・ユヌス先生が1983年に設立した銀行が「グラミンバンク」です。私はここで1か月間インターンをしました。先生は、2006年にノーベル平和賞を受賞しております。「グラミン」とは、地元のベンガル語で「農家」という意味です。農家のほとんどの人は、字が読めないだけではなく、自署もできません。そのような人々に年収に近い3万円を融資するのですが、貸しても絶対返ってこない、みんなに笑われてスタート

したそうです。

グラミンバンクでは融資をする際にヤギを買うように指導します。農作業の合間にヤギの搾乳をして、そのミルクを市場で販売すると1日で500円売り上げるので、年収が5倍になりますから、1年後には融資を受けた全員が3万円を返済できるのです。このようにして、村でたった42人への融資からスタートしたグラミンバンクは、今や1兆円融資し、貧しい900万人の農家の生活基盤づくりを支援しました。

ユヌス先生と出会い、この世界一貧しい国で、「売手よし、買手よし、世間よし」の「三方よし」のすばらしい仕事で成立しているのを目の当たりにして、日本に帰ったらこういう仕事をしようと決意しました。

また、バングラデシュの主食はカレーで、朝、昼、晩と大盛りで出てきます。食べられているお米の量を比較しますと、日本では1人1年間に50キロですが、バングラデシュでは200キロ、日本の4倍。ですから、食べ物がなくて困っているわけではありませんが、子どもたちは異様におなかが膨らみ、手と足が細い体形をしています。



## KOUENROKU

この原因はカレーの中身にあります。野菜も肉も魚も卵も、具が全く入っていません。つまり、極度のたんぱく不足のためにクワシオルコルシンドロームという病気を発症しているのです。バングラデシュの人々は栄養失調で苦しんでいました。そして、世界では新鮮な食料にアクセスできずに栄養不良、食糧危機で困っている人が10億人もいます。そこで、日本で食材の栄養の研究をして、栄養満点の食材をバングラデシュに持って帰ろうという決意を胸に、青いTシャツをお土産に買って日本に帰りました。

**◆ 微細藻類ユーグレナの大量培養に成功**

日本に帰って食材の栄養、農芸化学について勉強する中、大学3年生のときに微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ）のすごさを知ります。ユーグレナは植物プランクトンで海藻の仲間ですが、動物の特徴も併せ持っており自ら動くことができます。そして何より人間に大切な59種類の栄養素を含んでいます。これを食べれば栄養失調は改善されるのですが、培養することが非常に困難であることを知りました。その理由はユーグレナが食物連鎖ピラミッドの底辺にいるからです。栄養満点なので、培養している最中に必ず天敵が入ってきて、ユーグレナを食べてしまうのです。

そこで、大学で厳重な無菌操作を行いながら培養を試みました。しかし結果として、1年後にできたのはスプーン1杯分だけでした。

これではバングラデシュに届けられないと、研究を重ねました。そしてとうとう2005年12月16日、石垣島で、世界初のユーグレナの食用屋外大量培養に成功しました。年間生産量は、従来の研究室での100グラムから、今では100トンとなりました。

**◆ 501社目で待望の採用**

いよいよ社会実装しようと、大学発のベンチ

ャー企業として株式会社ユーグレナを設立しました。「ユーグレナ」はミドリムシの学名です。最初は知名度もなく大変だろうが、100社に説明すれば一社は取引してくれるだろうと見込み、生まれて初めての事業計画書をつくりました。

しかし、反応は芳しくありませんでした。2006年1月から07年12月まで2年かけて500社に営業に行きましたが、一社とも取引は成立しませんでした。断られる理由は常に同じで、「名前が気持ち悪い」「実績がない」。この壁は非常に高いものでした。

2年間売上ゼロですから、倒産は時間の問題でした。そんなとき、話を聞きたいという人が来られたのです。「食品業界で真っさらな物を探している。審査は厳しいが受けてみないか」と言われ、ラストチャンスと思って懸命に準備をした上で審査を受けました。その後2008年5月、役員会でゴーサインが出たとの連絡がようやく届きました。その会社が501社目となる伊藤忠商事でした。人生でこんなにうれしかったことはありません。

大手総合商社の伊藤忠が販売を始めると、お客さんの反応が変わりました。売上が伸び、ユーグレナ社はこれまでとは全く違うスタートアップ企業になりました。

今、大学がつくったベンチャー企業は3,782社あります。そのうち64社は上場しましたが、多くは新興市場の東証マザーズです。2014年12月3日、ユーグレナは大学発ベンチャー企業として日本で初めて東証一部（現：プライム市場）に上場しました。当初、仲間3人が集まってなけなしの貯金をはたいて1,000万円で作った会社が、たった10年で東証一部に上場して、企業価値は1,000億円になりました。

それまでは営業に行った先々から「聞いたことがない」「うちとは関係ない」「リスクだ」そして決まって「要らない」と言われました。こ

れまでに実績のない商品にはなかなかチャンスが巡って来ません。ここが日本からベンチャー企業とイノベーションが生まれない最大のボトルネックです。

社会が変わらないと、若者は絶対にベンチャーに挑戦しません。大変な目に遭うのが分かっているからです。ユーグレナ社にとっての伊藤忠商事のように、財界のリーダーの皆様方が学生、若者、大学にもっと優しい社会になる必要があります。

ユーグレナ社の「GENKI プログラム」は、2014年4月以来、バングラデシュの栄養失調に苦しむ子どもたちにユーグレナ入りクッキーを届けております。

このプログラムは私どもの商品をお使いの70万人のお客様に買っていただいた売上金額の一部を協賛金として充て、バングラデシュの1万人の小学生にユーグレナのクッキーを届けるという活動です。1年間このクッキーを食べた子どもたちの栄養失調は改善しました。

これはまさに今の政権が言う「新しい資本主義」、成長と分配の好循環を成し遂げるものであり、こうしたスタートアップが今後増えてほしいということで、内閣総理大臣賞もいただきました。そして昨年、スタートアップ育成の取組みが手遅れにならないように、政府の「スタートアップ育成5か年計画」づくりに参画し、これが策定されました。

### ◆ ミレニアル・Z世代が主役に

時代の次の主人公はミレニアル世代とZ世代です。皆様方と決定的に違うところが2つあります。1つ目はデジタルネイティブ。生まれたときから、インターネットやスマホがあります。2つ目はソーシャルネイティブ。お金を稼ぐことよりも、地球環境などの社会課題を解決することに生きがいや働きがいを感じるという特徴があります。

私は1980年に生まれ、2000年に20歳になりましたので、ミレニアル世代です。同期は今日本に150万人おります。父は1949年生まれ、団塊の世代の最後で、同期は270万人。一方、昨年生まれた赤ちゃんは既に80万人を切っております。赤ちゃんを1とすると、現役世代が2、団塊の世代が4という社会構成ですが、あと2年で大きな変化が来ます。

2025年に、日本の社会の中核を担う生産年齢人口（15～64歳）7,300万人の過半数がミレニアル・Z世代に替わるのです。こうした変化を既に経ている欧米は、グリーンビジネスの拡大に取り組んでいます。日本も急いで変わらなければなりません。変化のスピードが加速度的に増しているので、変化に対応できる組織になれるかが致命的に重要ですが、ほとんど変わっていません。

### ◆ CFO公募の理由

ダボス会議で、MITのアレックス・ペントランド教授は、変わる組織には3つ特徴があると言いました。1つ目が「talk a lot」、メンバーと多くコミュニケーションを取ること。2番目が「talk equally」、どんな立場の人でも平等に発言の機会があるという安心感を持つこと。そして、3つ目が「talk outside」で、これが最も難しいのです。同じような人たちが集まって何時間議論しても、誰一人盲点に気づかず、社会の変化に対応できず、恐竜のように滅んでしまうということ。日本の大企業が30年変われなかった原因はここにあります。

そこで、自分たちと一番接点がない人に経営に参加してもらおうと考え、18歳以下の若者を「最高未来責任者」（Chief Future Officer）として募集しました。現在までに3人を選任しましたが、彼らの貴重な意見は会社には様々な変化を起こしました。

彼らに聞きますと、今の大人には「アニマル

## KOUENROKU

スピリッツ」、一番にこだわる気力を感じないと言います。例えば日本で一番高い山は富士山ですが、二番目の北岳はあまり知られていません。検索結果を比べると、両者には格段の差が出ます。

## ◆ 適切な科学と繰り返し努力する力

しかし、一番を目指してもなれない人が大勢いる。家が貧しい。出身は大変な田舎で、必要な機材も教育機関もない。それでどうして一番の研究者になれるのかと、学生からは文句が出ます。競争社会で生き残るには、お金持ち、特別な才能と教育、そして家柄、コネが大事だと言います。

そうでしょうか。先述のとおり、私は平凡な家庭で育ちました。それでも、ユーグレナで日本一の会社をつくることができました。お金がない、東京じゃない、富山だからできない、あれない、これがない。そういった要素はイノベーションとは全然関係がありません。

何でも1回でうまくいくことはありません。99%失敗します。でも2回やれば、2回とも失敗するのは0.99の二乗ですから、1.99%うまくいきます。繰り返して100回行えば64%になります。そして、459回目、ついに数字が最初と逆転します。つまり、1回やって99%失敗するということは、459回頑張れば99%うまくいくということなのです。

コロナ禍前に、新潟で応用物理学会がありました。「いかに日本のイノベーションを社会実装するか」がテーマで、私の人生のテーマでもあります。その学会で、ノーベル賞を受賞された天野先生とお話をさせていただきました。先生は、1,500回実験に失敗した。それでも、青色LEDを発明したと。

イノベーションに必要なのは「適切な科学」と「繰り返し努力する力」だと確信しました。リーダーが、うちの社員には、学生には、息子

には到底できないなどと言ってははいけません。繰り返し努力することで奇跡をなし得ることができるのです。

## ◆ メンターとアンカー

人が繰り返し努力するために必要なのが「メンター」と「アンカー」です。心から尊敬できる先生や先輩であるメンターと出会って夢を持ち、そしてその夢を忘れないようにアンカーとして何か具体的な品物を持つ必要があります。

私のメンターはムハマド・ユヌス先生で、世界から貧困を根絶し、かつて存在した貧困を展示する「貧困博物館」を造ろうという夢をいただきました。前述の通り、初めてバングラデシュを訪れた際私はお土産に青いTシャツを買って帰国しました。一生懸命やっても実験や営業がうまくいかない。もうやめようと思い、家に帰って部屋着に着替えようとする、クローゼットにあるこのTシャツが必ず目に入ります。すると、バングラデシュでのことがよみがえります。83歳のユヌス先生が今も頑張っているのに、少し嫌な思いをしたからと、弟子の私が先にやめるわけにはいかない。もう一回頑張ろうという気持ちにさせてくれるのです。

そして、私の日本人のメンターが安藤忠雄先生です。82歳、しかも何度も大きな病気を乗り越えられたお体です。安藤先生にお会いして私のバングラデシュでの栄養の取組みをご説明し





ますと、安藤先生は「良いことに取り組んでおられますが、まだ半分ですね」「子どもには頭の栄養も必要。だから、絵本が読める図書館を造らなければいけない」と。バングラデシュには、こうした図書館がないのです。これをきっかけに、来年中の完成を目指して「こども本の森」を建てる計画が進んでおります。

#### ◆ バイオ燃料で社会貢献

ユーグレナは1種類ではなく、いろんな個性があります。その中に質の高い油が取れる種類があることが分かりましたので、これでバイオ燃料をつくれるのではないかと研究を始め、この成果を皆様に披露できる場所を探しておりました。

すると、水素自動車のカラーラを持つトヨタの豊田章男会長がCO<sub>2</sub>ゼロの車の3時間耐久レースをされることを知り、出たいと思っていたところに、マツダから石油を1滴も使わない100%のバイオ燃料でこのレースに参加したいと打診がありました。最高のチャンスです。

そして、2021年に岡山県で行われたこのレースの最後、感動的な場面がありました。前田執行役員が乗る37号車のマツダ・デミオを前に、豊田会長が乗る32号車の水素カラーラがランデブーしながらゴールしたのです。レース後、追い抜かなかった理由を聞かれた豊田会長は「敵はCO<sub>2</sub>。カーボンニュートラル社会を2050年につくる大事な仲間ですから」と答えました。本当に素晴らしい方です。意地でもバイオ燃料を極めて貢献しようというやる気をいただきました。

そして、バイオジェット燃料も完成させ、今年5月の広島G7サミットに岸田総理が出席される際、これを5トン給油した政府専用機にご搭乗いただきました。

マレーシアの国営石油会社ペトロナスが運営するペンゲラン製油所、この超巨大石油工場の

中に、アジアを代表する統合エネルギー企業であるペトロナスと欧州を拠点とするグローバル統合エネルギー企業であるエニと私どもユーグレナの3社はバイオ燃料製造プラントの建設・運営プロジェクトを共同で検討しています。多くの皆様にバイオ燃料をご活用いただけるようになることを目指しています。

#### ◆ 若者を応援し、時代に生き残れ

富山の学生と若者、大学には大変な魅力が残されております。2025年以降は、デジタルでソーシャルネイティブな若者たちの時代です。その若者が、これをやりたい、あれをやりたいと皆様のところに来ましたら、「うちとは関係ない、危ない」ではなく「聞いたことないけど、面白い」そういった前向きな視点で、お持ちのご経験とご見識をお使いいただきたいのです。そして、ぜひメンターとなり、アンカーをお渡しください。その若者が繰り返し努力することによって、富山で一番、日本で一番、世界で一番の新産業をたくさん生み出します。そういう富山になれるかどうかは富山を代表する財界のリーダーの皆様方の双肩にかかっています。

新しいことにチャレンジする若者を応援すること、そして皆様の会社に変化の時代に生き残られることを心から祈念いたします。





# 子どもたちに主体的な学びを 関田晃氏講演 — 1 月会員定例会 —

1 月会員定例会を 1 月 31 日(水)、オークスカナルパークホテル富山で開催し、さいたま市立大宮国際中等教育学校 校長の関田晃氏が「よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指して～県内唯一の中等教育学校、関東唯一の公立 I B (MYP+DP) 校の取組～」と題して講演を行った。今回は教育問題委員会（土屋誠委員長）が主管し、会員 69 名と、県教育委員会・県内公立学校の教職員 11 名が参加した。

さいたま市立大宮国際中等教育学校は、国際バカロレア機構（本部ジュネーブ）の認定を受けた国際的な教育プログラムを提供する中高一貫校。講演の冒頭で、関田氏は、この日の午前中に自らが撮影した同校の授業風景の動画を用いて、生徒たちが自ら考え、発表し、発表内容を生徒同士で批評し合って授業を進める様子を紹介した。

続いて、国の教育改革について、「生産年齢

人口の減少、グローバル化の進展や技術革新等により社会が急速に変化し、日本が厳しい時代を迎えることが予想される中、国は新しい時代に必要となる資質・能力を育成するために学習指導要領の改訂を行い、学びの形態を、主体的・対話的で深い学び、いわゆるアクティブラーニングの形態に変えようとしている」と説明したうえで、「新しい学習指導要領のベースにあるアクティブラーニングは、まさに国際バカロレア認定の教育プログラムが得意とするところ。当校は、これまでにない様々な方策で探求的な学びを深めていき、『世界の未来の作り方を学ぶこと』を目指している」と述べた。

そして、「大学入試のための勉強ではなく、よりよい世界を築くことに貢献するための力を育成することが当校のフィロソフィーだ」と熱く語った。

## 1 月会員定例会(R6.1.31)講演録

### 「よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指して」 ～県内唯一の中等教育学校、関東唯一の公立 I B (MYP+DP) 校の取組～

さいたま市立大宮国際中等教育学校 校長 関田 晃 氏



#### （プロフィール）

埼玉県上尾市出身。筑波大学人間学類教育学専攻（現人間学群教育学類）卒業。

埼玉県立高校教諭（国語科）、埼玉県教育委員会職員を経て、2007 年から県立高校教頭として県立高校再編整備担当を兼務し、県北部の全日制高校 1 校と近隣 3 高校の夜間定時制課程を統合して、新たな昼夜開校 2 部制・単位制の定時制高校開設に尽力。

さいたま市立高校教頭を経て、2012 年さいたま市教育委員会在職時に「市立高等学校『特色ある学校づくり』計画」立案に参画し、翌 2013 年新たなセクション高校教育課を新設して同計画を推進。

現任校の母体となる改編対象校公表の翌 2015 年から校長に着任し、母体校閉校と現任校開校に尽力し、2019 年に初代校長に就任。現在に至る。

元日の夕刻に発生した能登半島地震で、お亡くなりになり、また避難生活を余儀なくされて

いる大勢の方々に、心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。そして、そうした中でこのよ

うに多数の方がご参加いただく形で今回の講演会を開催いただいたことを誉れ高く感じております。

### ◆ 授業の様子

昨年も全国各地から本校をご視察いただきました。設立理念について、活動をご覧いただいた上でご説明しますと、皆さんは腹落ちしてくださるのですが、今回、言葉だけではそれが難しいと思いましたので、今朝撮影しました授業の映像を交えながらご紹介いたします。

海外の討論番組「TED」(原語)を見ながら、生徒たちはメモを取り、それを基に意見交換します。実は、これは英語ではなく国語の授業です。相手を魅了する話し方、論理の構築の仕方を学ぼうというものです(3年生)。

別の国語の授業では、教師が、好きな人に思いを伝える方法を問います。生徒は速やかにグループ活動に移り、LINE、ラブレターなどと答えます。これは和歌の授業です。古典を学ぶというと、古語や文法、作者の生い立ちなどとなりがちですが、思いを伝える方法としての歌に着目します。生徒は各自が考えた内容をシェアし、この授業の探究課題の答えを考え、発表し、相互に批評し合うという展開の授業です(2年生)。

数学では、携帯電話の基地局をどう置くのが最も効率的かというテーマで学習をしています(1年生)。

社会科では、ある文章を通じてスターリンやフルチョフなど旧ソ連の指導者の特徴を考え、「冷戦は終わったか、勝ったのは」をテーマに、自分なりの見解を出して意見交換します。また、日本とアジアの新しい関係についても取り上げ、戦後処理から現代に至るまでを考えます。これは世界史の授業で、過去に世界各地で起こった事象を暗記するのではなく、なぜそれが起こり、結果はどうなったのか、どういった過去の事象

が現代、そして未来に繋がるのかを過去から学ぼうというものです(4年生)。

理科ですが、例えばフェーン現象とは何で、こういった気象状況を引き起こすのかを、教科担任のアドバイスの下、生徒がグループごとに探求、発表して学びます。

基本的にどの教科でも、担当の教員が前に立ち、しゃべり続けて理解を求めるような講義一辺倒の授業はしません。

本校は校名に「国際」とあるだけあって、生徒は皆英語が得意です。英語は、ネイティブ教員が現在10名おり、近く3名増えて13名になります。日本人教員は6名ですので、大半がネイティブスピーカーです。入学時から、授業では日本語は使えません。説明は全て英語で行います。単語や文法などは、毎朝設けている英語のトレーニングの時間帯、「All English」で自習的な形で扱うことはありますが、授業の中で単語や文法のみを扱うことはありません。耳が慣れますので、3年生では指示されることが大体分かりますし、個別の質問も英語です。5年生になれば、2人1組で15分間途切れることなく英語で協議することも可能となります。

### ◆ MOIS開校の理念

政府が想定する2040年の日本の姿は、情報化社会を経てフェーズはSociety5.0に突入、人生100年時代を迎えるとともにグローバル化が進行し、ボーダーレスになる一方で人口はどんどん減少し、活力の減衰につながっていきます。こうした社会に向かう教育として、政府は、高校教育、大学入試及び大学教育の三位一体での改革を図りました。しかし、大学入学共通テストでの英語の民間検定試験や記述式問題の導入が頓挫するなど、計画どおり進んでいるとは言えませんが、その中であって、学習指導要領は変わりました。子どもたちの学びの形態を変える。主体的・対話的で深い学びにしていこう、



## KOUENROKU

いわゆるアクティブ・ラーニングの形態に変えていこうというものです。

一つ一つの知識がつながり、分かった、面白いと思える授業、周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業にしていこう。そして、実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能、学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性、さらに未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力、これら3つの力をバランスよく育もうというのが新しい学習の方向性です。

さて、本校の愛称は「MOIS」（モイス、Municipal Omiya International Secondary School）といいます。埼玉県内初にして唯一の中等教育学校です。国際的に評価の高い教育プログラム「国際バカロレア」（IB）の認定校で、授業は全て国際バカロレアの教育システムにのっとっています。今の学習指導要領のベースにあるアクティブ・ラーニングは、バカロレアが得意としているものです。そして、さいたま市の教育方針である「3つのG」を校訓としています。従来にない様々な方策で探求的な学びを深め、「世界の未来のつくり方」を学びます。

中等教育学校の特徴は6年一貫教育です。本校では、初めの4年間でMYP（ミドル・イヤー・プログラム）を学びます。そして、5・6年は、上位のDP（ディプロマ・プログラム）を導入する「グローバルコース」、文系・理系といった領域の制限のない幅広い教養を身につける「リベラルアーツコース」、そして科学技術に特化した知識・技能を身につける「STEMコース」という3つのコースの選択制となります。

国際バカロレアは、MYP、DP共に日本の教科や科目に大体応じていますが、学習のスタイルが大きく違います。MYPは日本の義務教育段階の3年間を含んでいますので、中学校の



学習指導要領に沿った内容を学びますが、学び方が違うのです。

校訓の「3つのG」とは「Grit」「Growth」「Global」です。最後までやり抜く力を身につけ、生涯にわたって学び、成長し続けよう。大学を卒業して学びを止めたら、後が長過ぎる。今の大人たちも社会に出て、様々な学びを得ながら仕事を進めている。そして、よりよい人生を構築するとともに、国際的な視野を持って、よりよい世界を築くことに自分自身が貢献する人になっていこう。その力をつけるための6年間だということです。

小学生とその保護者向けの本校の説明会では、「6年一貫だから高校入試はないし、大学入試の勉強を早くから始められ、いい大学に入りやすいとお考えであれば、他の学校をお選びください。残念ながら本校は違います。本校の理念に共感できるならば、その力を絶対に身につけさせますので入学をお勧めします」と説明しています。

#### ◆ 学びの仕組み

本校は2学期制で、夏休み前に成績は出ません。定期考査はなく、様々な課題の提出やパフォーマンス、プレゼンで評価しますので、教員はすごく大変です。9月中に締め切る課題が既にあるので、夏休み中には新たな課題を出しませんし、部活動、本校で言う「クラブ・アクティビティ」も休止します。

土曜授業を実施しています。隔週、午前中だけで、座学はしません。

授業は全て100分です。全教科・科目で先述のような討論や協議、プレゼンなどのスタイルを取りますので、それを50分に収めるのは至難の業です。ただし、週に2日だけ50分の授業「Term 4」があり、学活、前期課程生は道德にも充てます。

さらに、学習グループ制（2クラス・3グループ）のため、クラスで受ける授業はほとんどありません。グループにするのは苦肉の策です。日本は基本的に中高共に40人一斉授業ですが、これでは国際バカロレアの認定は受けられません。そこで、例えば1組、2組のそれぞれ3分の1を合わせた26～27人のグループを3組つくって授業をしています。

そして、先ほどの映像のように、探求的な学習に取り組みます。約50年前にアメリカの研究所が発表した理論によると、学習定着率は、講義一辺倒の授業ではせいぜい5%ですが、興味に従って読む読書は10%、視聴覚教材を使うと20%、デモの見聞きが30%、グループ討論で50%となります。さらに、自ら体験することで75%、他の人に教えると90%にアップします。ここで例示されるグループ討論以降の学習方法が、いわゆるアクティブ・ラーニングであり、これを実際の学習活動に生かしているのが本校であり、日本の全小・中・高校への導入が図られている授業の形態です。



全教科で授業はユニット（単位）に区切られます。ユニットの最初に、例えば、「あなたは何々地方の高校生です。高校周辺のリソースを使って魅力ある観光プランを立てたいので、アイデアを出してプレゼンしなさい」というように、グラスプス（場面設定）をします。ユニットの途中でクイズ、小テストなどの形成的評価をすることで達成度を測り、生徒自身に弱点を捉えさせます。ユニットの最初に教員が提示した総括的評価課題を、ユニットの最後に作品やレポートなど様々な形で提出します。

ただ、ペーパーテストを否定しているわけではなく、数学等ではペーパーテストを評価に用いることもあります。

通知表は、バカロレアは7段階評価なので7段階で評価します。ただし、年度末には日本のルールにのっとって5段階に評価し直します。

## ◆ 英語の学習とレベル

英語の学習には3形態あります。まず「All English」で、毎朝15分ずつ、文法や単語の自学自習、またディベートの反論など一部だけをチームで練習する、2人ペアで英語の意見交換の練習をする、などしています。

「English Inquiry」は、例えば経済や地球温暖化、アートの魅力など、英語で他の教科を学ぶイメージです。インプットとアウトプットは英語で行います。

「Language Acquisition」は通常の英語の授業です。本校の英語学習では、基本的に日本語は使えません。ネイティブの教員は保護者とは日本語で話をしますが、これは生徒には内緒です。日本語が話せないということになっているため、生徒はネイティブの教員には日本語で話しかけることはありません。1年生の教材の例（L A）です。「今回のユニットでは、こういう場面設定で、こういう課題が設定しており、11ターム（100分×11回）の時間をかけます。

## KOUENROKU

評価のためのテストやパフォーマンスはこの時期に実施します」と示してあります。そして、I Bの特徴なのですが、「関連性」や「システム」など、意識してもらいたい「conceptual framework」も示します。探求的な問いとして、評価にはどんな論理を使えばいいか、目的は何か、どんな質問が効果的か、なぜ論理的に考えるべきなのか等について深掘りします。また、「ATL skills」、アプローチ・トゥ・ラーニングとして、例えば目をそらさずに会話すること、整理して物事を考えることなど、身につけたいスキルを示します。最後が「Rubric」で、学習のポイント。このユニットでどの程度できればこの評価になりますと、あらかじめ全て生徒に説明しますし、保護者も見られるところに教材を置きます。

全国（都道府県及び指定都市別）の中学3年生の英語力を表すグラフを見ますと、鬼の角のように2本が突出しています。1つは福井県です。中学3年生の9月時点で86.4%が英検3級レベル（中学卒業程度）にあります。英検受験料は全て県費だそうです。

もう一つが、福井を0.2ポイント上回るさいたま市で、この調査開始以来、トップの位置にあります。本校のような学習を全ての中学校が行っているわけではありません。ただ、さいたま市では、小学校に英語教育が必修化される前に特区認定を受けて、小学校1年生から「グローバル・スタディ」という名称で英語の学習を始めていました。ですから、本校の入学者選抜にも英語のリスニングやコミュニケーションがあります。

さらに、手前みそですが、本校の生徒について言うと、英検I B A（9月）は、1年生で英検3級以上合格レベルが84.5%。翌年、2年生になると、全員がそのレベルをクリアし、さらに高校2年生レベルの英検準2級以上が81.9%に上がります。そして、3年生になると、これ



も100%がクリアします。また、ベネッセが実施しているG T E Cは、2年生が9月の時点で、840点満点中、平均約700点（全国平均：中3で約580点）。3年生は1,280点満点中の912点（高3で821点）、4年生になると1,004点にアップします。

#### ◆ 特色ある教科外活動

教科外の学習活動でも様々なことに取り組んでいます。総合的な学習の時間の活用方法は全国の中学・高校はずっと悩み続けていますが、本校は全てプログラムしています。1年生は「WHAT IS MOIS?」。自校の特徴を説明できるような資料づくりを行い、人に説明し、意見を返してもらいます。2年生になると「S D G s」で、17のゴールからグループ単位で1つをピックアップして探求し、できることを考えます。3年生は「グループ3 G」、自分たちの中で沸き起こった課題を自分たちで実際に解決に動き出してみようという活動です。4年生になると「パーソナル・プロジェクト」、MYPの修了研究とも言えることを行います。

そして、土曜授業はL D T (Learner Directed Time)、学習者本位の時間です。座学ではなく、何を行うかは基本的に自由で、様々な内容のワークショップを生徒も教員も主催できます。エクセルでの説得力あるグラフづくり、県外の生徒も招くディベート大会、また許認可を取ってのフードトラックでの販売、障害者作業所との



野菜等の連携販売、帰国生による中国文化の理解のためのワークショップや元海外青年協力隊の体育教員によるパンづくりといったワークショップもあります。それらは事前に告知され、生徒がデジタルで確認してエントリーする仕組みです。ワークショップに参加せずに、各教科の課題に取り組む生徒もいます。全てが自学自習ということです。

クラブ・アクティビティは部活動と違い、シーズン制です。1年を3シーズンに区切り、例えば、最初のシーズンを吹奏楽、次はダンス、最後のシーズンはバスケットボールということを6年間できるようにしています。クラブ・アクティビティは参加しなくても、同じものを続けても構いません。

国内の校外学習は1年生と4年生が2泊3日で行います。1年生は国内異文化体験。福島県にある、ブリティッシュヒルズに宿泊し、全て英語で生活します。4年生は東北でのフィールドワークです。修学旅行ですが、観光はしませ

ん。大震災に関して現地の方取材するなどし、復興のためにできることを考えます。

海外にも、10日間の日程で語学研修に行きます。2年生で行く予定だったのですが、コロナの関係で今回は3年生になりました。ニュージーランドのクライストチャーチで、全員がばらばらになってホームステイし、オセアニア英語を体験しました。5年生は、海外でのフィールドワークです。アメリカのピッツバーグへ行き、大学のサマースクールに参加しました。

また、本校は年に2回、三者面談を行います。そこで生徒は学習面での成長のエビデンスを示し、積み上げたスキルが自分の将来、そしてよりよい世界にどうつながるのかを担任と保護者にプレゼンします。それが論理的に説明できているかどうかを担任は述べ、アドバイスを行います。保護者からも助言を貰います。ネイティブの担任もいますので、希望すれば英語で面談します。



# 2023年度委員会再編の活動状況について

## — 第2回企画委員会 —

2月7日(水)、第2回企画委員会（高林幸裕委員長）を、まいもん洞で開催し、委員4名が参加した。

今回は、2023年度委員会再編フォローに関する最終報告案について協議が行われた。高林委員長から、12月末までの委員会開催状況を評価したところ、初年度のため委員会の開催回数が昨年度の約7割に止まるが、委員会への参加者数及び参加率ともに昨年度に比べ高く、「活発に活動に取り組まれており、現行の委員会体制のもと推進すべき」との最終報告案が示された。

また、12月20日の委員長連絡会議で議論された、①2024年度予算に反映すべき大きな行事を



高林委員長

考えているならば2月又は3月の常任幹事会で議論の俎上にあげること、②委員会活動を広く会員以外に門戸を広げること等を考えている場合は、事前に常任幹事会の場で問題提起を行うことについて情報共有が行われた。

その後、意見交換が行われ、最終報告案に全員が賛成し、2月20日の常任幹事会で報告することとした。



SDGs

8 働きがいも経済成長も

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

10 人や国の不平等をなくそう

17 パートナリシップで目標を達成しよう

### 大企業と中小企業の共存共栄の関係構築を目指して

### ～ パートナリシップ構築推進セミナー ～

1月23日(火)、オークスカナルパークホテル富山において、パートナーシップ構築推進セミナーを企業経営委員会（高木悦郎委員長）の主管により開催した。当セミナーは、エネルギー・原材料価格の高騰と人手不足により中小企業の経営が圧迫され、適切な価格転嫁によるサプライチェーン全体の共存共栄が求められている中、「パートナーシップ構築宣言」の更なる拡大とサプライチェーン全体における協力拡大に向けた機運醸成を図ることを目的に、富山県からの補助を受けて開催したもので、会員及び会員企業の担当者ら78名が参加した。

セミナーは2部構成。第1部では中部経済産業局取引適正化推進室 室長の青山美代子氏より、パートナーシップ構築宣言の制度概要についてご講演いただき、第2部では宣言企業による講演として、パートナーシップ構築大賞2022年中小企業庁長官賞を受賞した(株)日立システム

ズより、常務執行役員 CPO 溝口達也氏に「株式会社日立システムズにおける取り組みについて」と題しご講演いただいた。

青山氏は、パートナーシップ構築宣言の制度概要や宣言公表の意義、中小企業の価格交渉と価格転嫁の現状を説明。中でも、価格交渉が難しく、転嫁が進まない労務費について、「構造的な賃上げによる経済好循環の実現に向けて意識を変えていかねばならない」と熱く語った。



青山室長

溝口氏は、(株)日立システムズのパートナーシップ構築の取り組みの背景には、人財不足というIT業界にとっての大きな課題があると説明。

パートナーとの適切な取引基盤の下、相互の課題解決に向けてお互いに補完し合い協創すること

とで、共に事業の拡大を図ることが「パートナーシップ」であるとの考えに基づき、パートナーとの連携強化を進めていると語った。

終わりに、高木委員長が「中小企業にとつ



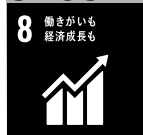
溝口常務執行役員

て大企業との価格交渉はまだまだ厳しいが、我々がパートナーシップ構築宣言をしていくことで、そのムードを変えていきたい」と挨拶し、セミナーを締めくくった。



高木委員長

SDGs



## 社員が輝く経営をめざして

### — 第1回同友会経営道場 —

企業経営委員会（高木悦郎委員長）は2月21日(水)、第1回同友会経営道場を開催し、43名の委員が出席した。今回は、発表者の森藤正浩氏が代表取締役を務める正栄産業㈱が今年1月にオープンさせた新社屋を会場とした。

森藤社長は、稲盛和夫氏の「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」が好きな言葉であり、壁にぶつかった時は常に、自分の「考え方」を振り返りながら経営をしてきたと切り出したうえで、自社の歩みと直面した壁、壁を乗り越えるための経営スタイル（考え方）の変化を語った。26歳の時、私利私欲から創業したが、そのような社長の下にはいい人材が集まらな



森藤代表取締役

いと気づき、相手のことを考えるよう改めた。その後、住宅メーカーの下請け工事店として成長する中、2か月連続の取引先の倒産により3,000万円の手形が不渡りになるという事件が起こる。ここで、下請けである限りこのリスクは避けられないと考え「脱下請け」を決意した。それからは、住宅メーカーとして順調に成長するも、今度はリーマンショックにより受注状況が悪化。この時に、これまでの良い業績は社員の頑張りのお陰であり、自身は経営者らしい仕事をしてこなかったと反省し、強い会社組織を作る必要性を感じた。そこで、経営計画書により方針を明確にし、それを社員の前で発表して目標達成に向かう組織を組み立てたほか、管理会計をオープンにし、社内勉強会を開催し

て社員への浸透を図った。

次に、森藤社長は、今最も意識していることとして「エラーフリーの実現」と「社員一人一人のオーナーシップ」を挙げた。成功と失敗の分岐点はエラーの数であり、エラーの少なさが企業の損益、顧客満足、社員満足を決定するカギとなる。そこで、エラーフリーを目指して業務の平準化・標準化に取り組んでいるとのこと。また「社員一人一人が自分の人生の経営者である」という考えの下、社員に毎月の自身の損益や入社後の自身の累積損益を示して上司面談を行うことで、社員の自己理解を深め自分の仕事にオーナーシップを持ってもらうようにしていると説明した。

最後に「社員がオーナーシップを感じながら仕事ができれば、一つの経験がより厚いものになり、楽しい人生を送れる。社員一人一人が輝ける会社を目指して頑張っていきたい」と語り発表を締めくくった。

発表後に行ったグループディスカッションでは、各グループによる活発な意見交換がなされ、活気あふれる経営道場となった。



グループディスカッション



## 「オール富山」の舞台とその余韻を楽しむ — 第5回文化スポーツ委員会 —

第5回文化スポーツ委員会を1月27日(金)、オーバード・ホール中ホールで開催し、委員37名が参加した。今回は3回シリーズで「地域における文化施設の役割」を考えるプログラムの最終回として、オーバード・ホールプロデュース タニノクロウ×オール富山「ニューマドンナ」を鑑賞した。公演終了後、アフタートークを開催し、タニノ氏と武内委員長が対談した。出演者、美術制作スタッフの公募や小道具提供等、地域とのつながりをもち「オール富山」で制作された作品について、タニノ氏は、「技術的にも難易度が高いものに挑戦した。関わったスタッフがそれぞれのこだわりを追求し完成した。この舞台は、世界にも引けを取らな



武内委員長

い」と話した。委員からも、作品について、監督がこだわった演出等について多くの質問

が出された。トーク終了後、委員が舞台上がり、客席からは見えない細部まで精巧に仕上げられた舞台美術を間近で見学した。舞台制作の過程を通じて、地域、企業、文化施設担当者が連携し、唯一無二の作品が生まれることを肌で感じた。

これまで2回にわたって、市民文化事業団と連携してきた当委員会の活動について、公演当日、観客に配布されたパンフレットに掲載された。



## 引退後も富山で活躍を — 第3回アスリート支援小委員会 —

第3回アスリート支援小委員会（遠藤忠洋委員長）を、1月22日(月)、富山県民会館で開催し、委員17名が参加した。今回は、元カタレ富山の選手、高橋駿太氏と佐々木一輝氏



遠藤委員長

を招いて、「選手が描くセカンドキャリアについて」意見交換を行った。遠藤委員長が「現役のプロスポーツ選手がどんなことを考えているか、実際、引退後働いてみてどうだったかを直接聞き、我々がアスリート支援として何ができるかを考えたい」と挨拶。元プロアスリートの高橋氏、佐々木氏は、「選手時代はサッカーだけを考え一生懸命努力していた。今感じることは、現役時代からもう少し視野を広げて他の職業を知るための機会があればセカンドキャリア

の選択肢がより増えたのでは、ということ。選手が考えるきっかけの場を作ってもらえたらありがたい」と話した。委員からは、選手が職業理解や自己理解ができる研修やインターンシップ等の仕組み作り、起業のサポート等の支援策が提案された。プロアスリートが引退後も富山に残って活躍してもらうために、支援の仕組みづくりについて引き続き考察する。



高橋氏、佐々木氏を囲んでの懇親会



# 産学官交流会と就職環境について

## ～ 第2回人財活躍委員会 ～

1月24日(水)、第2回人財活躍委員会(森弘吉委員長)をオックスカナルパークホテル富山で開催し、23名の委員が参加した。

最初に、今年度の活動実績及び今後の活動予定について森委員長から説明がなされた後、(株)就活ラジオ アドバイザーの辻素樹氏、富山大学副学長兼就職キャリアセンター長の會澤宣一氏、人財活躍委員会の山田副委員長がパネリスト、森委員長がファシリテーター役となり「産学官交流会と現在の就職環境について」をテーマとして、採用支援、学校、経営者それぞれの立場からディスカッションを行った。

まず、就職活動の早期化について、會澤氏から「学生にとって就職活動の期間が長くなるのは良いことだが、表面だけをみて様々な企業に応募することが増え企業とのミスマッチも増えており、何を見据えて就職活動をするのが大事である」と発言があり、山田副委員長から「早期化により大手企業に先に決まって



森委員長



會澤 宣一 氏

しまうことが多いので、いかに自社を見つけてもらい選んでもらうかが課題である」との意見が挙がった。

今の若者世代への対応について、辻氏から3点、かけた時間に対する満足度である「タイパ」を重視すること、働きやすいが、キャリアや成長性を感じにくいと「ゆるブラック企業」とみなされてしまうこと、上司や配属先が企業によって決まっ

てしまうことを若者は「ガチャ」に例えて「上司ガチャ」「配属ガチャ」というように表現することを挙げ、企業と若者とのギャップを埋めていくことが定着率を高める上で重要であると伝えた。

また、辻氏は、次年度に共催を検討している産学官交流会の内容や交流会を始めた経緯についても説明した。

参加した委員にとって採用に関する知見を深める貴重な機会となった。



山田副委員長



辻 素樹 氏



## 富山の企業を見よう！

### ～ とやま企業見学バスツアー ～

富山県内への若者の就職を促すべく、富山県が主催する「とやま企業見学バスツアー」が2月15、16日に開催された。低年次から県内での就職を意識してもらうため、今回初めて大学1、2年生を対象に行われた。当会も共催し、人財活躍委員会から森

委員長、山田副委員長が同行した。

4つのコースが設定され、当会は「ものづくりコース」を担当し、立山科学(株)、十全化学(株)を大学生23名が訪問。実際に工場や職場の様子を見学し、若手社員との座談会を行うことで企業の雰囲気を感じ、



バスの移動中も就活に関するクイズなどを行い今後の就活に向けて知見を深めた。

参加した学生から「実際に会社を見学してみても自分のやりたいことが見つかった」といった意見があり実りのある活動となった。

また、2月29日には、富山大学の外国人留学生向けの企業見学会を富山大学と共催

し10名の留学生が参加した。会員企業である(株)リッチェル、田中精密工業(株)、ダブルツリー by ヒルトン富山、北陸電気工業(株)の4社を訪問し、森委員長が同行した。

訪問した企業の説明は同行した大学の通訳担当を交えながら行い、参加者は熱心に聞き入った。質疑応答の際にも参加者が積極的に質問し、企業について理解を深めた。

SDGs

11 住み続けられるまちづくりを



## 賑わいを生むまちづくりとは

### — 第3回地域創生委員会 —

1月30日(火)、オークスカナルパークホテル富山において第3回地域創生委員会を開催し、委員53名が出席。「今次活動の中間報告」をテーマに、次年度活動につなげるべく今年度の活動を振り返った。

最初に、池田委員長が今年度の活動概要を報告。第1回委員会で、富山県経営管理部 公民連携推進監の吉田守一氏から「共創・運営型の公民連携」の取り組みや起点となる「未来ビジョン」の必要性について学んだこと、また、委員会後に出席委員へアンケート調査を実施し富山のまちづくりに関する意見や課題認識を整理したこと、それらを踏まえ第2回委員会として広島・松山のまちづくり先進事例視察へ繋がったことを報告した。



池田委員長

続いて、第2回委員会（広島・松山視察）について、担当副委員長が詳細を報告するとともに、視察を踏まえ富山のまちづくりに関して意見を述べた。広島視察報告を担当した東澤副委員長は、行政とまちづくり団体等との“調整役”かつ都心と中山間地の“連携役”となるプラットフォームの取り組みや、公共交通を軸とした賑わい創出のためのまちなか再開発および人が集まる“からくり”の展開、等を広島視察で得た

知見として紹介。また、松山視察報告を担当した橋本副委員長は、道路空間の再配分等による歩行者空間の整備事例や、“産学官連携”かつ“住民参加型”の賑わい創出に向けた取組事例について学ぶとともに、空間整備が進む大通りや活気あるアーケード街等「歩いて暮らせるまち」の魅力を体感したことを報告。そのうえで、それぞれ広島・松山の取組みを参考に、富山のまちづくりに関して考察を展開した。



東澤副委員長

橋本副委員長

最後に、池田委員長が全体所感として今年度の活動を総括するとともに、出席委員と質疑応答・意見交換を実施。委員から挙げた様々な意見も踏まえ、次年度の活動でまちづくりに関し更に調査・研究を深めたいとした。







# 思いを伝え相手のこころを動かそう ～ スケッチオーデション2023 ～

## ●スケッチオーデションとは・・・

富山経済同友会（アントレプレナーシップ小委員会）、とやま未来共創チーム、富山ニュービジネス協議会、富山大学が共催する地域人材の育成・発掘を主目的としたビジネスプランコンテスト。

最大の特徴はコンテスト本番ではなく、新たな事業を志す挑戦者とメンターによる「仲間と学びあい支えあう」事をコンセプトとして、2024年3月17日(日)の決勝大会に向けてビジネスプランの考え方のインプットと、アイデアをブラッシュアップする過程を重視した珍しいイベ

ントである。

プログラムの総合プロデューサーは昨年度に引き続き富田欣和氏（関西学院大学 経営戦略研究科 教授）が務め、講師は過去大会参加者や決勝大会の審査委員が務める予定である。

今年度は総勢79名（挑戦者60名、メンター19名）からの申込があり、3月のコンテスト本番に向けて、学びを深めている。

1月、2月には、Day 5（1月20日）、Day 6（2月3日）が実施され、プレゼンテーションの予選・決勝大会に向けて最後の講義が行われた。

## ● Day 5〔1月20日(土)〕

Day 5の特別講義には決勝大会の審査員も務める(株)ユーフォリア代表取締役の橋口寛氏と(株)ZENKIGEN 代表取締役の野澤比日樹氏が登壇し、富田氏も交えディスカッションを行った。

まず、野澤氏は参加者に伝えたいこととして2点「後ろの扉を閉じなければ前の扉は開かない」「コンフォートゾーンから出続けること」を挙げた。前者について野澤氏は、「新しいことを始め



野澤 比日樹 氏

るときには怖いと思い踏みとどまってしまうが、そこで一歩踏み出した人が成功しており、たとえ失敗したとしても、やり切った人の方が幸せを感じることが出来る。後顧の憂いを断ち挑戦すべきである」と参加者に訴えかけた。

また、後者については、「居心地の良い環境であるコンフォートゾーンから出て一生懸命努力し続けることにより、仲間も助けてくれるようになり様々なことが出来るようになる。それを継続することで変化対応力が養われ恐れもなくなっていく」と説いた。

また、人前で話すポイントについて富田氏より尋ねられると、橋口氏は「話を伝えるときは

言葉の力しかないので魂をのせて伝えることを意識する」と言い、野澤氏は「人の評価を気にするのではなく、自分のやりたいことや思いを伝える」と加えた。



橋口 寛 氏

対談の後にはスケッチオーデションの参加者とは別に会員と講師との特別対談の場が設けられ、感想を語り合った。参加者達はメンターとのメンタリングセッションを実施し、各自の事業アイデアの検討や、ビジネスプランのブラッシュアップを行った。



特別対談

## ● Day6〔2月3日(土)〕

この日の特別講義には、富山大学学術研究部芸術文化学系講師の岡本和久氏が登壇。参加者のチャレンジに向けて、「プレゼンテーションでの伝え方」をテーマに講演を行い、プレゼンテーション



岡本 和久 氏

のグラフィック、ストーリーをどのように組み立てるかを「コミュニケーションをデザインすること」として、講義を行った。まず広告デザインで重要なことは、「課題を解決し、ユーザーに発見を提供すること」であると述べ、広告をデザインする時、「商品を使うことでどんな良いことがあるか、得られる価値は何か」を考えることが大切であると述べた。

その中で、価値を伝えるために「何を言うか」、そして広告の最終目標である「人を動かし、モノを動かすこと」を考えることが重要であると述べ、広告の本質は「そのためのコミュニケーションをつくりだすことである」と伝えた。

続いて、メッセージを受け取る時の3つの反応として、①常識、あたりまえ、誰もが知っていること②知っているけど、普段は意識の下で眠っていること③理解不能なこと、に分かれること、また、その中で特に大切なものは、「②知っているけど、普段は意識の下で眠っていること」であるとし、受け手側は「そういえば、そうだよ。なるほどね」という発見をすることによって興味を持つ(＝自分事化する)と伝えた。また、実際の企業の広告を用いて、人を惹きつける魅力的な広告には「印象に残すしくみ」として送り手と受け手のコミュニケーションの

仕組みが作られていることを確認し、発見や気づきを上手く組み合わせることで、素晴らしいメッセージを届けられ、それができると「人のこころが動き、ものが動く。すなわち、コミュニケーションをデザインできる」と説明し、広告やデザインに限らず、ビジネスや仲間へ呼びかけるシーンでも意識して欲しいと訴えかけた。

そして、「誰が何のために、誰に何を伝えたいと思っているのか。だから何を言うか。どう言うか」が大切であると言い、「ウケ狙いの表現、単なる描写はNGであり、受け手にとっての視点で考えることが重要である」と伝えた。

また、挑戦者たちがビジネスプランの仕上げ段階に入っている中で必要な視点として、サイモン・シネックが提唱したゴールデンサークル理論を挙げた。多くの人は「What」から「Why」に向かって物事を伝えるが、「Why」から「What」に向かって伝えると共感を得られやすく、人の心をうごかすために「Why」をしっかりと考えることが重要であり、プランでも伝えられるようにして欲しいと言葉を送り講演を締めくくった。

岡本氏の特別講演の後には、スケッチオーデションの挑戦者でもある澤井寧子氏から「表現の仕方」について講義が行われ、プレゼンでの立ち振る舞いや衣装による自身の見せ方など、大会ではライバルにもなる参加者に対する助言は、仲間づくりを重点としたスケッチオーデションならではの光景であった。



澤井 寧子 氏



# 社員の幸せ実現で企業成長を

## — 第1回ウェルビーイング小委員会 —

2月8日(木)、オークスカナルパークホテル富山において第1回ウェルビーイング小委員会（東出悦子委員長）を開催し、委員22名らが出席。ウェルビーイング経営実践に向けた



東出委員長

知見を深める勉強会と位置付け、①講演会（組事例の共有）、②グループディスカッション（課題や疑問の洗出し）、③パネルディスカッション（実践に向けた知見の深化）の3部構成で開催した。

第1部の講演会では、県内で先進的取組みを実践するハリタ金属(株)代表取締役 張田真氏、十全化学(株)取締役社長 廣田大輔氏の2人に自社の取組みを紹介いただいた。

張田氏は、「私たちのWell-Being経営」と題し講演。企業活動における「人権尊重」機運の高まりにより組織のトップが従業員の幸せ実現に責任を持つ時代にある今、「最強



張田 真 氏

の企業成長エンジンは従業員の“幸せ”である」とのウェルビーイング経営の意義を示したうえで、科学的アプローチにより主観的で多様な“幸せ”を理解し企業経営に織り込む自社の手法として、経営理念および価値観（行動指針）に“幸せ”“Well-being”を明記し「言語化」することで戦略を明確化したことを説明するとともに、“Well-being”を精神的・肉体的・社会的側面に「因数分解」しKPIを設定することで“幸せ”を可視化する具体的アプローチ体制や、経営理念・価値観を「人事制度と連動」させる仕組みなどを紹介した。

また、廣田氏は、「仕事を愉しむチームを目指して」と題し、自身の楽天グループでの経験を活かし自社で実践する具体的な取組みを紹介。自社のありたい姿「自律的に愉しく仕事が出来

る、働きがいのある会社」「チャレンジする人が安心して活躍出来る環境がある会社」実現のため、自身と全社員との1対1の面談や外部プラットフォームを活用したエンゲージ



廣田 大輔 氏

メントサーベイにより「企業理念、ミッション、行動指針の設定、浸透」を図っていること、また、人事評価制度の改正や、重要プロジェクト・新規プロジェクトへの若手メンバー起用、シンカ（深化・進化・新化）をキーワードとした新社屋建設などの制度・体制・環境整備を通して「メンバーが“踊れる”場づくり」に取り組んでいること、などを挙げた。

続いて、第2部のグループディスカッションでは、ウェルビーイングを成長戦略の中心に据え、その推進に取り組む富山県からの出席者も交え、4～5人のグループにわかれて議論。講演会を受けた感想や疑問、自社での実践にあたっての課題等を自由に語り合った。



グループディスカッションの様子

そして、第3部では、張田氏・廣田氏の両氏に加え、富山県商工労働部次長 舟根秀也氏にも登壇いただき、パネルディスカッションを実施。東出委員長がファシリテーターとなり、グループディスカッションで挙げた意見・質疑を“テーマ”として、議論を交わした。その中で、決して容易ではない“ウェルビーイ



舟根 秀也 氏



ング経営への転換”を図るにあたってのポイントを問われた張田氏・廣田氏はともに、「経営者の理解者を増やすこと」を挙げ、「改革はトップダウンでないと進まない。経営者として方針を根気強く発信し続け、何のために改革を行うのか、丁寧な説明を繰り返した」という自身らの経験を語った。また、舟根氏は、県成長戦略会議のプロジェクトチームにおいても県内企業のウェルビーイング経営の推進を重要課題として議論してきたことに触れ、張田氏・廣田氏が示したトップダウンでの経営改革に共感を示したうえで、推進の鍵は「トップの意識改革」であるとし、県として「経営者がウェルビーイング経営に舵を切る“きっかけ”となるような施策を考え展開していきたい」と話した。

委員会を通して活発な意見交換が行われ、ウェルビーイング経営実践・深化に向けた知見を得るとともに、経営者相互・官民相互に課題や意識を共有できる、非常に有意義な機会となった。



パネルディスカッションの様子

## 新B1残留を目指して —富山グラウジーズ応援—

2月4日(日)、文化スポーツ委員会（武内孝憲委員長）は地元プロスポーツチームを応援する「同友会の日」を開催し、富山市総合体育館において富山グラウジーズ対秋田ノーザンハピネッツの試合を観戦した。

当日は、麦野代表幹事、牧田代表幹事をはじめ会員・会員企業の従業員やその家族合わせて約140名が参加し試合を見守った。第1クォーター、出だしから相手に2本連続で3点シュートを決められつまずいた。ボールを回せず引き離されてしまい、後半も立て直すことができず、残念ながら73-100で敗れた。会員らは、最後まで熱い声援と拍手を送った。今期最後の同友会



の日、勝利で終わることはできなかった。当日の入場者数は3,957人。2年後に始まる新トップリーグ参入の基準となる入場者数「4,000人」を上回るためにも、引き続き選手の奮闘を期待したい。

今年度も地域プロスポーツを応援する「同友会の日」にたくさんのご参加をいただきありがとうございました。

# 次年度の海外経済視察先はドイツに

## ～ 第3回交流委員会 ～

1月15日(月)に第3回交流委員会（中沖雄委員長）を事務局会議室で開催した。

委員9人と大橋聡司担当役員が参加し、冒頭、中沖委員長と大橋担当役員が挨拶を行ったのち議題に入った。

第2回交流委員会での議論を踏まえ、来年度の海外経済視察のテーマや行先などについて検討した。「産業のDX化」、「カーボンニュートラル」、「賑わいのあるまちづくり」の分野で先進的な取り組みが行われており、本県のものづくり産業やまちづくりに学ぶところが多いドイツを訪問先として設定して、テーマに合う訪問都市や具体的な視察先等について旅行業



中沖委員長

者から提案を受ける企画プロポーザルを実施することとした。

そして、次回の第4回交流委員会において、旅行業者からのプレゼンテーションを開催することとして、提案要件等を取りまとめた。



# プレゼンを実施し訪問都市、コースを絞る

## ～ 第4回交流委員会 ～

2月16日(金)、事務局会議室において、第4回交流委員会（中沖雄委員長）を開催し委員8名が参加した。委員会では、旅行業者を選定するプロポーザルを実施し、2社から提案を受けた。

旅行業者からは、ドイツの訪問都市とその視察先、効率的でストレスのないコースなどについての企画提案と見積額が提示され、委員全員が熱心にプレゼンテーションを聞き、質疑を行い、旅行業者を選定した。また、プレゼンテーション終了後に、提案のあった全8ルートを評価し、どのルートが良いと考えるか意見交換を行った。

「宿泊先を変えると荷物のパッキングが大変だ。大都市を拠点に列車で近郊を移動するほうが良いのではないか」、「ドイツの高速鉄道を体験するのも良い」、「航空機代が高騰しており、

曜日により金額が相当異なる」などの意見が出され、ドイツの拠点都市に連泊して近郊に列車で訪問するコース案を交流委員会として提案することとした。







# 新規事業の検討をスタート

## ～ 第4回教育問題委員会 ～

1月12日(金)、富山県民会館において、第4回教育問題委員会（土屋誠委員長）を開催し、委員12名が参加した。

この日は委員会に先立ち、富山県教育委員会との意見交換会を開催。11月21日(火)の1回目の意見交換会に次ぐ2回目となる今回は、当会側の参加者を正副委員長・担当役員に絞って開催した。

委員会では、まず、2回目の県教育委員会との意見交換会の内容について寺島副委員長から報告がなされた。

次に、土屋委員長から次年度の委員会活動について説明がなされた。土屋委員長は、次年度の活動として、今



土屋委員長

年度で最終回を迎えた海外教育事情視察の後継事業の素案を説明した。また、今年度で2巡目を終えた5経済同友会教育担当委員会交流会について、3巡目を、当会主管で次年度に開催することで他の同友会と調整したいと述べた。この2事業については、次回の委員会に向けさらに検討を深めることとなった。



# 令和6年度の活動方針を議論

## ～ 第5回教育問題委員会 ～

2月19日(金)、オークスカナルパークホテル富山において、第5回教育問題委員会（土屋誠委員長）を開催し、委員26名が参加した。

土屋委員長は、冒頭挨拶の後、令和6年度の委員会活動方針として、富山県教育委員会の事業への協力や5経済同友会教育担当委員会交流会の企画案、海外教育事情視察の後継事業「教師と企業人との交流事業」の企画案に



土屋委員長

ついて説明した。

出席した委員からは、「理系離れ」「教員のなり手不足」といった他の課題にも取り組むとよいのではないか、話を聞くだけで終わるのではなく課題解決に繋がるような事業にすべきといった意見が出され、令和6年度の活動に向け活発な意見交換が行われた。

最後に、土屋委員長が、本日の議論も踏まえ、県教育委員会や他同友会などと調整したうえで令和6年度の活動に繋げていきたいと総括し、委員会を締めくくった。







## — 課外授業講師派遣 —

### 第14回 富山大学教育学部附属小学校

2月5日(月)、牧田和樹氏(株)MGG取締役社長)が富山大学教育学部附属小学校にて、5・6学年138名を対象に「よりよく生きる」と題して課外授業を行った。

牧田社長ははじめに、児童たちに「カッコいい大人になるためには何が必要か?」と問いかけた。そして、「カッコよくなるためには、『こうなりたい』という目標・夢を持ち、自分自身を知り、自分にできることを伸ばし、できないことをできるように努力することで結果が出る」と述べた。

次に、努力して結果を出していく過程で備えておくべき重要な要素として「知性」「意欲」「人間性」の3つを紹介した。中でも、「人間性」について、「人間は、“人の間”と書くように、自分と自分以外の人との間で関係を築きながら生きる。人間は一人では生きていけない。知性と意欲だけをもって自分一人で夢を実現させることは難しいが、人間性を高めると、周りが自分を助けてくれるようになり、夢の実現に近づ

くことができる」とその重要性を説いた。

最後に、「人には皆感情があり、感情がぶつかると、時にはけんかやいじめに繋がってしまうが、自分の感情を抑え相手を思いやる広い心を持ってほしい。学校の勉強も大事だが、それ以上に大事なのが心を育むこと。思いやりの心を持って、人とうまく関わりながら生きてほしい。それがよりよく生きることに繋がる」と熱く語り授業を締めくくった。

授業後の質疑の時間には児童たちから質問が殺到した。「夢を見つけるにはどうしたらよいか」という質問には、「今、夢が見つからなければ、目の前にあることに一生懸命に取り組んでほしい。目一杯頑張るとそこからヒントが生まれ、やりたいことが芽生えてくる」と答えた。



### 第15回 高岡市立南星中学校

2月8日(木)、市森友明氏(NiX JAPAN株式会社取締役社長)が高岡市立南星中学校にて、1学年149名を対象に「学びの目的を知って、学ぶ努力を楽しもう」と題して課外授業を行った。

市森社長は冒頭、自社の事業を紹介したうえで、仕事のあるべき姿について、社会価値と経済価値の両方を生み出すのが「仕事」であり「働く」ことであると説いた。

次に、仕事と学習の関係について「例えば土木設計の仕事には物理の知識が求められるなど、社会貢献する仕事には技術や技能が必要とされ、それを身につける基礎が学習である。また、中学生の今は、将来どんな仕事に就くかイメージできなくても、よく学習することで、将来をイメージでき、仕事を選ぶ際に選択肢が広がる」と説明し、学習することの大切さを説いた。

続けて、努力量と成果の関係を描いた成長曲線を示しながら、「学習や努力はしんどいもので、最初は努力が成果となって表れるが、次第に努力をしても成果が出ない“停滞期”が訪れる。

これが“成長の壁”となって立ちはいなくなり、ここで諦めてしまう人が多い。だが、成長の壁を超える前に諦めてしまうと今までの努力やかけてきた時間が無駄になってしまう。成長の壁の前

後では、努力量の差は小さいが、成長度は大きく異なる。努力を続けると必ずどこかでブレイクスルーを起こすことができる」と述べたうえで、「この成長曲線を理解しておけば、成長の実感がなくても努力することができる。伸び悩んで苦しい時にはこの成長曲線を思い描き、諦めずに努力しよう」とアドバイスした。

最後に、「努力は幸福を手に入れる手段ではなく、努力そのものが幸福を与えてくれる。人間は生来の能力に差はあるが、その差は努力で埋められる。皆さんの将来は希望に満ちている」とエールを送り授業を締めくくった。





## 県外人から見た富山県人

上 願 宏 幸

(株式会社ホクタテ 代表取締役)

福井県出身ですが、富山県に初めて来たのは大学4年生の就職活動のときです。勇壮な立山連峰に感動し、北陸銀行本店でお茶出ししてくれた女性が超美人だったことを覚えています。

富山の第一印象が良かったことも一因か?? 同行に入行し約36年間勤務した後、一昨年6月から現職となり、通算で38年間富山県人の皆様とお付き合いしています。県外人の独断と偏見で、僭越ながら富山県人についての個人的意見を書かせていただきます。

初任店は京都支店でしたが、銀行全体で富山県人の割合は約5割を占めており、銀行内には「富山WAY」が浸透（横行!?）していました。

京都市内中心部の店舗なのに共通語は富山弁で（時にはお客様に対しても）「だっちゃ」の連発。まるで漫画「うる星やつら」ヒロインのラムちゃん言葉が店内に蔓延していて「京都の雅さ」から全くかけ離れた世界でした。「だら」と言われてよく叱られ、それは時々「だらぶち」に変化しましたが、その違い（閾値）は今でもよくわかりません。言葉一つをとっても、周囲に流されない富山県人の頑固さ、矜持を感じました。

世間の評判どおり、富山県人は真面目で粘り強く、特に目標意識の高さには目を見張るものがあります。

新商品発売時には本部から販売目標を通知されるのですが、販売初日に目標達成することが当然の雰囲気でした。また、大都市圏や北海道においても、地元以外の不利な環境をものともせず取引先との紐帯強化や新規先開拓を成し遂げる逞しい先輩の背中を眩しく思いました。ぬるま湯育ちの私にとって最初はカルチャーショックの連続でしたが、次第に「富山WAY」

に染まっていきました。

それから、富山県人は、出身組織等に対する愛情や仲間意識が半端なく強固です。

富山県ではマスコミの人物紹介や普段の会話で特に学歴や出身地に拘りますが、これは相手とのつながりを見つけ、それを大切にしようとする富山県人の気質の表れだと考えています。

各種富山ゆかりの会、富山に関係する学校・クラブ・職場等のOB会・同期会など、様々な出身組織がありますが、活発な活動内容やイベント参加者の規模は他の地域を圧倒しています。

東京勤務時には東京富山県人連合会総会・懇親会に何度か出席し、富山県人の郷土愛と団結力の強さを体感しました。色々な形で富山に関わり合いのある方々がホテルニューオータニ東京に集い、懇親会は着席で約1,000人もの参加者でした。富山県からは知事を始め全ての首長、富山本社ならびに富山県に関係のある有力企業の代表者等が多数列席し、午後6時から9時半頃まで延々と続く盛大な会でした（県外人には正直苦痛でしたが…）。

富山市内に延べ14年間住んでおり、社会人になってからは福井県内より長くなりました。今では富山に対する愛着や理解が深まり、自分が富山県人であるかのような感覚を覚えます。

現在、地域創生委員会の正副委員長会議で、「富山のまちづくり」の意見書づくりに参画していますが、本当に有意義で楽しい時間をいただいています。これからも「富山県人」に寄り添って取り組んでいきますので、引き続きご指導、ご支援の程、どうかよろしくお願いします。

（次号はどうざわ印刷工業㈱）

取締役社長の東澤善樹 様です。）

# 活動報告

1月1日～2月29日

## ○幹事会・定例会等

| 開催日時・場所                                        | 内 容                                                                                                                           | 出席者 |
|------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1月11日(木)<br>11:30～12:00<br>富山電気ビルディング          | 1月幹事会                                                                                                                         | 51名 |
| 1月31日(水)<br>16:00～19:10<br>オークスカナルパーク<br>ホテル富山 | 1月会員定例会（教育問題委員会主管）<br>講師：さいたま市立大宮国際中等教育学校 校長 関田 晃 氏<br>演題：「よりよい世界を築くことに貢献する地球人の育成を目指して～県内唯一の中等教育学校、関東唯一の公立 IB（MYP + DP）校の取組～」 | 80名 |

## ○委員会

| 開催日時・場所                                        | 委員会名               | 内 容                                                                                                                                                                            | 出席者 |
|------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1月12日(金)<br>16:45～17:30<br>富山県民会館              | 第4回教育問題委員会         | ・今後の事業についての意見交換                                                                                                                                                                | 12名 |
| 1月15日(月)<br>13:30～14:45<br>事務局会議室              | 第3回交流委員会           | ・第42回海外経済視察について                                                                                                                                                                | 10名 |
| 1月22日(月)<br>17:00～20:15<br>富山県民会館              | 第3回アスリート支援<br>小委員会 | ・元アスリート選手との意見交換会<br>高橋 駿太 氏<br>佐々木 一輝 氏<br>・テーマ：選手が描くセカンドキャリアについて                                                                                                              | 17名 |
| 1月24日(水)<br>16:30～20:10<br>オークスカナルパーク<br>ホテル富山 | 第2回人財活躍委員会         | ・パネルディスカッション<br>テ ィ マ：産学官交流会と現在の採用環境について<br>パネリスト：(株)就活ラジオ アドバイザー<br>辻 素樹 氏<br>富山大学副学長兼就職<br>キャリアセンター長<br>會澤 宜一 氏<br>人財活躍委員会 副委員長<br>山田 恵子 氏<br>ファシリテーター：人財活躍委員会 委員長<br>森 弘吉 氏 | 23名 |
| 1月27日(土)<br>13:00～18:00<br>オーバード・ホール<br>中ホール   | 第5回文化スポーツ<br>委員会   | ・タニノクロウ×オール富山「ニュー<br>マドンナ」鑑賞<br>・タニノクロウ氏とアフタートーク<br>・舞台美術見学                                                                                                                    | 37名 |
| 1月30日(火)<br>17:00～20:10<br>オークスカナルパーク<br>ホテル富山 | 第3回地域創生委員会         | ・今次活動の中間報告<br>－富山のまちづくりに関する考察－                                                                                                                                                 | 53名 |
| 2月7日(水)<br>17:00～20:30<br>まいもん洞                | 第2回企画委員会           | ・2023年度委員会再編のフォロー<br>（最終報告案）について                                                                                                                                               | 4名  |



| 開催日時・場所                                        | 委員会名                    | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 出席者 |
|------------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 2月8日(木)<br>16:00～19:40<br>オックスカナルパーク<br>ホテル富山  | 第1回ウェルビー<br>イング小委員会     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会<br/>講師：ハリタ金属(株) 代表取締役<br/>張田 真 氏<br/>演題：「私たちの Well-Being 経営」</li> <li>講師：十全化学(株) 取締役社長<br/>廣田 大輔 氏<br/>演題：「仕事を愉しむチームを目指<br/>して」</li> <li>・グループディスカッション</li> <li>・パネルディスカッション<br/>パネリスト：ハリタ金属(株) 代表取締役<br/>張田 真 氏<br/>十全化学(株) 取締役社長<br/>廣田 大輔 氏<br/>富山県商工労働部次長<br/>舟根 秀也 氏<br/>ファシリテーター：ウェルビーイング小委員会<br/>委員長 東出 悦子 氏</li> </ul> | 22名 |
| 2月16日(金)<br>13:00～14:45<br>事務局会議室              | 第4回交流委員会                | ・第42回海外経済視察について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 8名  |
| 2月19日(月)<br>17:00～20:00<br>オックスカナルパーク<br>ホテル富山 | 第5回教育問題委員会              | ・来年度の事業計画について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 26名 |
| 2月21日(水)<br>17:00～20:10<br>正栄産業                | 第1回同友会経営道場<br>(企業経営委員会) | ・発表者：正栄産業(株) 代表取締役<br>森藤 正浩 氏                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 43名 |
| 2月27日(火)<br>17:00～18:30<br>富山県民会館              | 文化スポーツ委員会<br>第5回正副委員長会議 | ・活動実績と今後の予定について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 5名  |
| 2月28日(水)<br>16:30～18:00<br>N T T西日本<br>東田地方ビル  | 地域創生委員会<br>第5回正副委員長会議   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「N T T西日本の街づくり、スマート<br/>シティの取組み」についてヒアリング</li> <li>・まちづくりに関する意見交換</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                       | 5名  |

## ○課外授業講師派遣

| 開催日時    | 学 校           | 対 象       | 講師      |
|---------|---------------|-----------|---------|
| 2月5日(月) | 富山大学教育学部附属小学校 | 5・6学年138名 | 牧田 和樹 氏 |
| 2月8日(木) | 高岡市立南星中学校     | 1学年149名   | 市森 友明 氏 |

## ○その他の会合

| 開催日      | 内 容                                  | 場 所                 | 出席者    |
|----------|--------------------------------------|---------------------|--------|
| 1月22日(月) | 第3回とやまスタートアップ戦略会議                    | オンライン               | 麦野代表幹事 |
| 1月23日(火) | パートナーシップ構築推進セミナー                     | オックスカナル<br>パークホテル富山 | 78名    |
| 2月4日(日)  | 同友会の日「富山グラウジーズ」観戦                    | 富山市総合体育館            | 約140名  |
| 2月14日(水) | T-Messe2023富山県ものづくり総合見本市<br>第4回実行委員会 | 富山県民会館              | 上田事務局長 |
| 2月19日(月) | T-Startup Day                        | 富山市民プラザ             | 麦野代表幹事 |

# 会 員 の 入 退 会

(1月幹事会)

## 1. 最近思うこと

(社業についての抱負や最近の政治・経済・社会情勢等についての考えなど)

## 2. 生活信条(座右の銘等)

## 3. 趣味

## 入 会



さわ だ のり ひで  
澤 田 憲 秀

(有)三広

代表取締役

(紹介者：金田俊樹氏)



しゅ わり さとし  
種 昂 哲

(株)スタジオシュワリ

代表取締役

(紹介者：石倉 央氏)

1. 災害や円安など経済を取り巻く環境は大変な状況です。その中でも看板業を通して取引先また地域のために少しでも貢献できるように努めてまいります。
2. 一生懸命、いつも笑顔で
3. ウォーキング

1. 起業し、富山にUターンで移住してから10年が経とうとしています。建築設計の仕事を通して、まちを豊かにすること、仕事を楽しむことを両立できればと思っています。
2. 自分の考えをしっかりと持ち、謙虚に人と接することを日々心がけています。
3. 写真撮影、ワインと食事、建築見学、読書



すぎ の がく  
杉 野 岳

(株)スギノマシン

代表取締役 副社長

(紹介者：牧田和樹氏)



せき ごち ゆう すけ  
関 口 雄 介

(株)関口組

代表取締役

(紹介者：大橋聡司氏)

1. 何が起こるか分からないという前提で、施策を打っていかなければならない。また、企業は地域社会あつての存在ということを改めて意識して、長期視点で貢献していきたい。
2. クールヘッド・ウォームハート(根拠に基づいた思考・判断と、熱意を持った実行)
3. 自転車・スキー・テニス・料理

1. 最近思うことは人手不足です。今後もインフラを作り、守っていくためには人材の確保が必要だと思っています。
2. 刻石流水
3. サウナ、ゴルフ、グルメ巡り



の ざわ とし あき  
野 澤 利 昭  
(公財)友愛健康医学センター  
常務理事  
(紹介者：酒井郁生氏)

1. 「人生100年時代」を豊かに生きるため、労働衛生の面からサポートしたいと考えております。
2. 雲外蒼天
3. 釣り、散歩



ひろ かわ のり き  
廣 川 範 樹  
廣川建設工業(株)  
代表取締役  
(紹介者：大橋聡司氏)

1. 常によりよいものを目指して変革していきます。
2. やるからには楽しく
3. ゴルフ、登山、スノーボード



よこ やま えいいちろう  
横 山 栄一郎  
横山冷菓(株)  
代表取締役  
(紹介者：大橋聡司氏)

1. 社長就任し丸2年、海外進出や労働環境整備など新しいことに取り組むことができ、ここまで楽しくやってきました。アイスクリームを通じて幸せを提供できるよう精進します。
2. なんとかならない、なんとかする
3. ジョギング、筋トレ



はな だ まさ し  
花 田 将 司  
いなほ化工(株)  
代表取締役  
(紹介者：多田慎一氏)

1. より良い地域(まち)をつくるためのツールである会社を最大化するためにHD化。イノベーションを生み出すために業界を超えたコンビネーションを以て新たなバリューを。
2. 成功よりも成長を。勝つか負けるかではなく、勝つか学ぶか。
3. 様々な経営者に会う事



まつ うら むね のり  
松 浦 宗 徳  
(株)内外商事  
代表取締役  
(紹介者：石坂兼人氏)

1. 数年先が見えない時代の中で、会社を存続するには、スタッフへの感謝、教育、地域との関わりが重要だと思います。必要とされる企業である為に、時代への想像力を磨きたい。
2. 苦言に耳をかさない経営者は必ず会社に危機を招く
3. ゴルフ、食事、スポーツ



## 交 代



おく はら こう じ  
奥 原 恒 治  
(株)電通西日本 北陸支社  
富山オフィス長  
(前：青山 毅氏)

1. 富山・北陸の発展に貢献するとともに、新たな可能性に挑戦したい。
2. 雲外蒼天
3. 映画鑑賞、音楽鑑賞、楽器



みや ぐち よし ひと  
宮 口 義 史  
菱機工業(株)  
富山支店長  
(前：大野賢治氏)

1. 脱炭素化やカーボンニュートラルなど、世界のメガトレンドを読み、今後想定されるお客様の課題に、設備業者として自社は何を提供できるかを考えています。
2. できない理由を考えるより、できる方法を考える。
3. 写真・キャンプ

## 所属企業変更

碓 井 一 平  
Labore (株)代表取締役  
→ (株)就活ラジオ 代表取締役

## 退 会

本 田 百合子 アシシステム税理士法人  
代表社員  
林 広 麗 (株)林インターナショナル  
代表取締役

(令和6年1月11日現在 会員数447名)

## 全10回の同窓生大集合！ ～ 海外教育事情視察大同窓会 ～

当会が平成20年度から実施している海外教育事情視察は、今年度で最終回となる10回目の視察を終えた。この節目に、第1回から第10回までの全10回の視察参加者で集おうと、2月4日(日)に富山県民会館にて「大同窓会」を開催。視察に参加した会員・教員ら96名が出席した。

会の前半では各回視察参加教員による「思い出語り」が行われた。当時の懐かしいエピソードが紹介されるたびに会場が笑いに包まれた。当視察の発案者である中尾特別顧問が全10回を振り返り、「視察に参加さ

れた先生方が成長し立派な指導者になられた様子を感じられて、本当に嬉しく思う。15年前に始めた事業だが、やってよかったと改めて感じた」と語った。終盤には、視察に参加した教員から中尾特別顧問に感謝の言葉が述べられた。

久しぶりの再会に、皆で思い出話や近況などを語り合い、会場は大いに盛り上がった。



### 今後の予定

| 開催日             | 対 象         | 行 事                                  | 場 所               |
|-----------------|-------------|--------------------------------------|-------------------|
| 4月16日(火)        | 幹事以上        | 4月幹事会                                | 富山電気ビルディング        |
| 4月18日(木)～19日(金) | 全会員         | 第36回全国経済同友会セミナー<br>(福井経済同友会主管)       | 福井県福井市            |
| 4月24日(水)        | 全会員         | 2024年度定時総会・懇親会                       | A N Aクラウンプラザホテル富山 |
| 6月16日(日)        | あけぼの会<br>会員 | 第86回あけぼの会                            | 呉羽カントリークラブ        |
| 7月10日(水)        | 幹事以上        | 7月幹事会                                | 富山電気ビルディング        |
| 7月10日(水)        | 全会員         | 7月会員定例会<br>講師：(株)セコマ 代表取締役会長 丸谷 智保 氏 | 富山電気ビルディング        |
| 9月8日(日)～16日(月)  | 全会員         | 第42回海外経済視察                           | ドイツ               |
| 9月23日<br>(月・振休) | あけぼの会<br>会員 | 第87回あけぼの会                            | 呉羽カントリークラブ        |

#### 〔表紙写真〕

#### 第5回文化スポーツ委員会（演劇鑑賞）

1月27日(土)タニノクロウ×オール富山3rdステージ「ニューマドンナ」を鑑賞。

写真は、演劇鑑賞後、タニノクロウ氏によるアフタートークと舞台の美術セットを見学する様子。

#### 発 行 所

#### 富山経済同友会

富山市牛島新町5番5号 インテックビル4階

電 話 (076) 444-0660

F A X (076) 444-0661

e-mail: doyukai@po.hitwave.or.jp

https://www.doyukai.org/



海外経済視察 プラハにて（筆者は、一番後ろ左から5番目）



創立40周年記念式典  
当時の中尾代表幹事から表彰状を受ける



## 経済同友会事務局での二年間

株式会社ケーブルテレビ富山 取締役会長

尾島 志朗

私は、1989年7月から2年間、富山経済同友会に事務局員として勤務していた。

当時の事務局は堤町の北陸銀行本店の2階、日本銀行の事務所の向かいにあり、メンバーは北銀から出向の事務局長と電力から来た32歳の私、そして女性事務員の3名のみ。

会員数は約300名で、代表幹事は現富山県知事のご尊父の日本海ガス社長 新田嗣治朗氏と北陸電力社長 谷正雄氏の二人体制であった。

主な行事は、幹事会、総会・年末懇親会など現在とほぼ同じだが、委員会は3つと少ない。しかし、これには理由があり、現在は委員長自らが書き手となって提言を作成しているが、当時は、事務局員が委員の意見を伺いながらゼロから提言案を作っていたので、これ以上委員会を増やすと事務局が耐えられないのだ。私の担当は地域対策委員会で、如何にもバブル絶頂期に相応しい「リゾート開発」がテーマだったが、30歳そこそこの若僧に、いきなり経済界からの

提言を書けと言われても、マトモなものができる訳がない。厳しいお叱りや様々な助言を戴きながら、なんとか書き上げたが、できれば私の黒歴史として封印してしまいたい...

また、海外経済視察は、中近東・東欧方面、アメリカ東海岸と2度随行したが、最も印象深く貴重な体験だったと思うのは、崩壊直前にベルリンの壁を抜けて東側に入ったことだろうか。

振り返れば同友会での2年間は、企画や営業など数字に追い回された会社員人生の中で、唯一それらとは無縁のオアシスのような時間であり、後に経営に携わる上で貴重な財産となった。

2014年に会員として再び同友会と関わることになるが、当時ゼロだった女性も含め会員数は440名を超えた。事務局も増強され、委員会も大幅に増えて活動は大変活発である。富山の経済人が、自由闊達に交流し行動する素晴らしい組織に成長したと思う。元事務局員としては、今後でもできる限り参加し、応援してまいりたい。